

表5 サクラワセの混播効果

(雪印種苗株式会社千葉研究農場)

品 種	初 期 再 生 (%)	乾物収量 (kg/10a) ()内は乾物率 %			
		I (4/7)	II (5/2)	III (7/4)	合 計
エース単播	6	464 (12.3)	401 (13.1)	462 (12.1)	1,327 (12.5)
エース+サクラワセ混播	7	529 (13.9)	348 (15.4)	349 (13.3)	1,226 (14.1)

注) 播種期: 10月15日。
 播種量: 単播 3 kg/10a、混播 2 kg/10a + サクラワセ 1 kg/10a。
 初期生育、再生: 極良 9 ~ 極不良 1。

表6 タチワセの混播効果

(鹿児島農試 大隅支場)

品 種	倒 伏		乾物収量 (kg/10a) ()内は乾物率 %		
	I (1/19)	II (3/24)	I (1/19)	II (3/24)	合 計
エース単播	1~2	4	450 (13.3)	638 (10.9)	1,088 (12.1)
エース+タチワセ混播	1	0	490 (13.7)	800 (12.8)	1,290 (13.3)

注) 播種期: 10月20日。
 播種量: 単播 3 kg/10a、混播 1.5 kg/10a + タチワセ 1.5 kg/10a。
 倒伏 無 0、微 1...甚 5 (1番草の倒伏は葉のなびき)。

らも乾物率の向上、収量の増加が認められ、さらに倒伏防止効果も顕著に見られます。

⑤繁殖豚の緑餌 (サイレージ) として

繁殖豚の緑餌として、ラジノクローバが良く利用されますが、イタリアンライグラスもし好性が良く適する作物です。特にエースは葉部の割合が

高く、茎も比較的柔らかく、サイレージ調製に好適です。

繁殖豚にイタリアンライグラスのサイレージを給与することによって、単に濃厚飼料の節減に役立つだけでなく、ビタミン・ミネラル・繊維質の補給による母豚の健康増進、繁殖性の向上などの効果も期待されます (詳しくは、牧草と園芸 第32巻第6号参照)。

以上、イタリアンライグラス「エース」の特性とその利用方法についてポイントのみを紹介いたしました。もともと利用性の広い草種ですので、現場ではさらにさまざまな使い方を

されていることと思います。

今後エースを利用される上で少しでも参考になれば幸いです。

インゲンマメ、南九州産地の動向

雪印種苗株式会社宮崎試験農場

七 澤 和 洋

1 はじめに

南九州地域 (宮崎県・鹿児島県・沖縄県) は、冬期間も温暖な気候を利用した促成栽培や抑制栽培が行われており、他の産地が出荷できない時期に出荷することによって、高い市場価格をとっている先進産地です。インゲンマメもその例にもれず、市場での評価の高い産地が多く見られます。ここでは、南九州地域の各県における産地の動向について述べたいと思います。

2 南九州地域の動向 (表1, 2, 3 参照)

1) 宮崎県

インゲンマメの栽培面積は 123 ha (昭和 61 年) で宮崎県内の全野菜栽培面積の 0.8% にすぎませんが、県央から県南にかけて栽培されています。県央は西都市・高岡町が、県南は日南市・串間市が中心となっています。作型は露地抑制と露地早熟栽培が行われ、品種は抑制栽培では早期多収を目指すために、すじなし系が栽培されており、早熟

表1 南九州地域3県の主要作型と栽培面積

作型	栽培面積	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
宮崎県 抑制	123ha		×~~~~○	○									
早熟									×-×~~~~○	○			
鹿児島県 抑制	501ha (ハウス)	×	×	○		○							
早熟	(トンネル)							×	×	○			○
沖縄県 抑制	330ha		×	×	○	○							
半促成				×	×	○			○				
早熟							×	×	○	○			

×-×：播種期 ○-○：収穫期。

表2 東京都中央卸売市場における南九州地域3県のインゲンマメの入荷量および単価 (昭和63年度)

(数量：トン 単価：kg当たり円)

区分	年計		1月		2月		3月		4月		5月	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
宮崎県	73	817	7	1,241	7	1,133	7	989	8	790	13	559
鹿児島県	905	662	10	851	3	1,296	5	1,200	72	888	206	606
沖縄県	1,077	1,159	170	1,298	213	1,282	236	1,194	221	1,003	40	830
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月					
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
	8	357	—	709	—	666	1	642	3	654	6	769
	167	377	9	178	1	456	32	414	136	655	181	763
	—	656	—	—	—	—	—	—	—	—	13	1,170
											183	1,098

青果物流通年報より抜粋。

表3 東京都中央卸売市場における鹿児島県、沖縄県のインゲンマメの市場占有率 (昭和63年度)

	年計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
沖縄県	11.5	74.4	77.2	77.8	52.2	5.9	—	—	—	—	—	2.1	45.5
鹿児島県	9.7	4.4	1.0	1.5	17.0	30.1	12.6	0.7	0.1	2.7	13.3	29.4	20.8

青果物流通年報より抜粋。

栽培では収量も重要ですが、むしろ品質に重点をおき、スノークロップ・ネリナが栽培されています。

宮崎県ではピーマンが有名ですが、ピーマンのハウスは5~6棟の連棟式であり、ハウスの継ぎ目が遊んでいます。その継ぎ目にスノークロップ・ネリナを栽培している例が多く見られます。スノークロップ・ネリナは莢の品質が高く、莢の肥大が緩慢なため、ピーマンの収穫とインゲンマメの収穫が重複し、インゲンマメの収穫を後回しにしても品質の低下はほとんどなく、さらに単価が高いため奥さんの小遣い稼ぎに最適だという話を聞きます。また、冬期間、ピーマンハウスの暖房用重油代がインゲンマメの収益で十分に足りたという話も聞いています。最近では、ハウスみかんの根

元の空き地を利用したスノークロップ・ネリナの栽培も始まっています。

宮崎県では他の2県と異なり、インゲンマメ単独の栽培に併行してハウスなどの空き地利用栽培が増えていくと推測されます。

2) 鹿児島県

鹿児島県の産地は大きく3つに分かれます。阿久根市近辺を中心とする地域、垂水市・根占町を中心とする大隅半島南部地域、そして与論島・沖永良部島などの離島地域です。

品種の動向も本土と離島は異なり、離島ではさまざまな制約があり(船舶輸送・くん蒸処理など)、大阪・九州内への出荷となるため、丸莢品種が栽培されています。抑制栽培の場合、やはり早期多収が重要ですじなし系品種中心ですが、年明けか

らの栽培には品種を重視し、スノークロップ・ネリナを多く栽培しています。離島におけるインゲンマメの栽培面積は年々増加傾向にあり、その最大の理由はサトウキビの連作による障害と買い取り規格が厳しくなってきたためと言われます。そこで栽培容易で換金性の高い作物としてインゲンマメが選ばれ、最も注目されているわけです。

一方本土の産地では、主に東京市場に出荷されており、関西市場へはほとんど出荷されていません。東京市場向けの品種は凹凸のあるケンタッキータイプの矮性品種が主流で、補助的にすじなし丸莢系品種が栽培され、その割合は凹凸莢8に対して丸莢2となっています。作型は他県と同じく抑制と早熟があり、さらに抑制の場合、ハウス・露地の2通りがあります。露地抑制では後作に馬鈴薯が作付けされる関係もあって、早期多収が第一条件であり、主にすじなし系品種が作付けされています。ハウスの抑制と早熟栽培には、丸莢のスノークロップ・ネリナと凹凸系品種の2本立てとなっています。単価は全般に凹凸系品種が高値傾向のようですが、時期により丸莢のスノークロップ・ネリナのほうが高値となる場合もあります。

鹿児島県からの出荷時期は、東京近郊産地からの出荷時期と競合することがないので莢の品質の制約も厳しくなく、従来より長年栽培されてきた凹凸莢が主流となっています。しかし最近、莢の品質を重視する農家グループもあり、そのような地域ではスノークロップ・ネリナに切り替える動きも見られます。また、水田転換作物としてインゲンマメの面積を増やそうとしている地域もあり、期待のもてる作物と言えましょう。

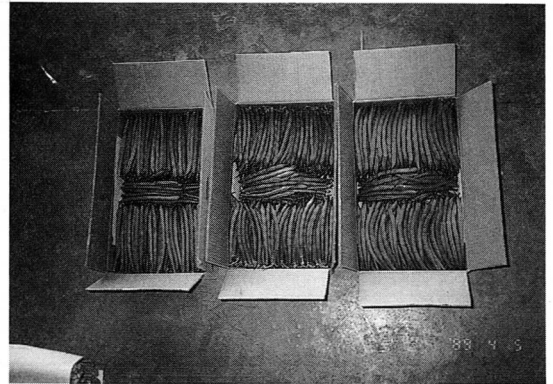
3) 沖縄県

離島地域と作型および作付時期は同様であり、また、離島と同じくウリミバエ防除のくん蒸処理が義務付けられています。しかし、大きく異なる点は大阪・東京といった大消費地に直接空輸できることで、船舶輸送では5日かかるところを1日で輸送可能であり、鮮度が良く高値で引きとられています。

東京へのお荷量が多く、その場合には凹凸莢品種、また大阪へはスノークロップ・ネリナを含む丸莢品種と完全に色分けされています。



インゲンマメのハウス早熟栽培状況（与論町）



スノークロップ・ネリナの出荷状況（与論町）

インゲンマメの栽培面積は330 ha(昭和60年度)あり、沖縄県ではサトウキビを除き最も作付けの多い作物で、他県産地から出荷できない品薄時期を狙える有利性があります。今後まだ面積を伸ばせる有望作物と推定されます。

3 ま と め

南九州地域3県のインゲンマメ産地の動向について簡単にまとめてみました。質より量を追っている産地もありますが、今後産地間競争が激化することは必須であり、品質に重点がおかれるものと思われます。

大阪市場において箱にスノークロップの標示があると、品質は間違いのないという安心感が持たれています。スノークロップ・ネリナをはじめとするスノークロップ・シリーズの高い品質および収益性による産地形成、銘柄確立についてお願い申し上げます。